

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	(有)和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成23年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいた介護ができるように努力しています。「春のうらら」の生活が楽しく、笑顔が少しでも多く見られるように支援しております。家族と共にバーベキュー、花火、遠足、素麺流しなど行い絆を深めれるようにしたり、文化祭を2年に1回開催して地域交流に力を入れています。今年は、裏の畑の野菜や米作りに取り組み利用者様が楽しめるように工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然と共に、駅や公民館、病院、保育園、小中学校、商店街等が近くにあり、生活環境に恵まれた事業所である。2つのユニットの間にウッドデッキがあり、洗濯物を干したりバーベキュー大会を催す等、活用している。家庭菜園で栽培されている季節の野菜を利用者と一緒に収穫し、食材として利用している。事業所内を利用者は自由に移動し、思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

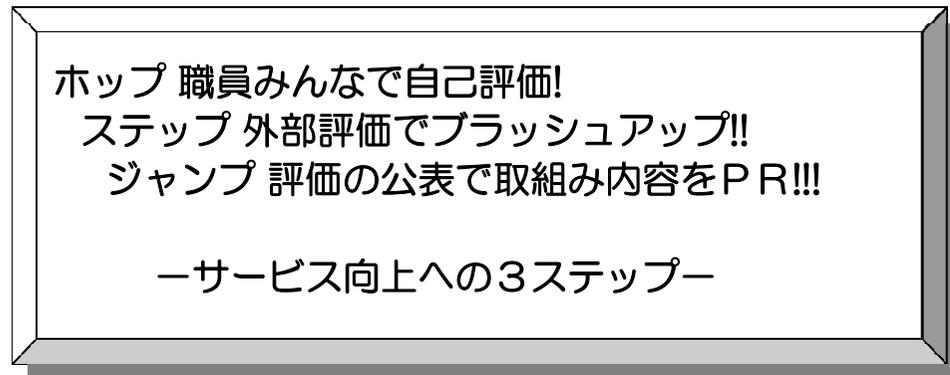
※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。



事業所名	グループホーム春のうらら		
(ユニット名)	菜の花		
記入者(管理者)	氏名		
	箕島美保		
評価完了日	平成23年	8月	20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、常に目に付く所に掲示してあり、再確認しながら実践に繋げています。ミニ目標「感謝、助け合い」を立て取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 「その人らしさを大切にしたい、あたたかいホームを目指します」という事業所の理念をもとに「感謝、助け合い」をユニットの目標に掲げている。利用者や職員がお互いに感謝し合い、助け合って日々過ごす事が大切であると考え実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の運動会、公民館、祭りに参加し又、散歩時途中にベンチを設置しており地域の方々の語り等積極的に交流している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて、地域行事等の情報交換に努め、市民大清掃や公民館での芸能発表会、運動会等に利用者と共に参加している。また、年2回の事業所の文化祭には地域の方に協力してもらい、理解を深めてもらう機会としている。ベンチを設置し散歩途中の近所の人達と気軽に交流できるようにしている。</p>	現在行っている地域交流の取り組みを継続しながら、利用者に地域の一員として活躍してもらえよう機会を提供できるよう、今後の取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議の地域住民代表、家族代表に認知症の理解をしていただく為の情報を発信しています。将来的にGHで培った事を地域に幅広く伝達していきたいです。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の構成員の方々に、実践、状態の報告を行い助言して頂いて、貴重な意見を受け止めて実践に活かしています。公民館活動のお誘い、行事の案内、場所の提供などして頂いています。	
			(外部評価) 2か月ごとに開催し、利用者の状況報告や行事報告等を行い意見交換を行っている。地域の方とは、相互に行事等で協力し合う関係が構築されている。運営推進会議で検討された内容は職員会議で報告され、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) その都度、分からない事など教えて頂いたり、書類を持参して担当者との関りを多く持つようにしています。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加し、情報提供や助言等得られている。介護保険の更新時にはケアプランを提出し、利用者の情報を提供し連携を深めている。分からない事があれば相談し助言を得ている。市からの情報はメールにて送られてきて必要があれば返信している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 6月20日勉強会時、具体的な行為、柵や歩行時の腰部介助など禁止的な例を用いて身体拘束の理解を深めました。ホーム内での身体拘束は、しておりません。	
			(外部評価) 身体拘束や虐待防止について勉強会を行い、職員全員で共通の認識を持つようにしている。施設長や管理者が率先して、利用者がのびのびと生活できるよう身体拘束をしないケアに取り組み、自由に過ごしてもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 6月20日勉強会時、虐待についても話し合い理解し、お互いに注意し合うようにしています。不適切な言葉も職員間で注意し合っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護や成年後見制度の勉強会を行いました。必要と思われる方は、周知し関係機関との橋渡しをするようにしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の契約する時に、十分時間をとり分かり易く説明し不安がないように納得を得ています。改正時は、その都度、説明を行っています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 御家族に、5月、12月の2回アンケートを実施し、意見、要望を記入して頂き、貴重な意見を参考にしてケアに活かしています。夏まつりにも家族会を開催して幅広い意見を頂くようにしています。 (外部評価) 具体的な項目で意見や要望が記入しやすい様式の家族アンケートを年2回行っている。運営推進会議や職員会で結果が報告され、サービスの質や職員の質の向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回の職員会議では、意見の出し易い場を提供しています。又、個人面談を実施して意見を聞き出しています</p> <p>(外部評価) 年2回個別の面談を行い意見を聞く機会を設けている。また、職員評価を施設長が中心になり職員全員で実施しており、評価結果は運営に反映させている。管理者は、職員の意見をよく聞くように心がけ、日頃から意見が出しやすい環境を整えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 小さな事業所なので、十分な事は出来ないが1人ひとりの個性を生かした役割を与え、やりがいや向上心が持てる様に考えている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 国家資格取得→実践者研修→リーダー研修→管理者研修とステップアップを応援しています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 日本認知症GH協会、愛媛県地域密着型サービス協会に加入し研修に参加したり、市の担当者会に参加したりしています。又、今年度は、GH間の相互研修にも参加します</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居しばらくの間は、不安やとまどいも多々あると思うので、多めの声かけ、御家族との連携等心がけています</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に見学に来て頂き、他者とも会話し不安にならないように努めています。御本人、御家族の要望を十分に聞いて配慮し安心して暮らせるように連絡を多く持ち、家族も泊まったりしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 支援できる事、出来ないことをはっきり話して事業所として精一杯対応をしています。必要に応じマッサージ、介護タクシーの利用をしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 主体は、常に利用者様です。まず個人を大切にすると 言う気持ちで接しています。相互に信頼関係を築き、言葉遣い、挨拶などに努めています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 御家族経営の梨園へ梨狩りに行ったりしていますが、ふるさと訪問が一部しか達成していない為、継続して行っていきます。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 梨狩りで本人の家の、近所の方の所へ行っていますが一部の利用者である。今までの繋がりを続けられるようにふるさと訪問をして行きたいです。 (外部評価) 事業所での生活が長くなり地域での関わりが日常的になってきたため、新たな馴染みの関係を大切に取る取組みが増えている。今までの馴染みの関係の継続については利用者の希望により、家族の協力を得ながら支援して行くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 同級生、同じ地区から入居されており、お互いにいい関係を保っています。時に気性が激しくなって孤立する時は、孤立しないように職員が介入したり居室に訪問し寄り添うようにしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居しても御家族が来てくれたり、その後状態を電話で聞いたりしています。退居時、関係者への情報提供と習慣や暮らし方など詳しく伝えていきます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いを伝えられない方は、本人の立場に立って考え話しの中、表情組みとるようにしています。本人の思いと御家族の思いとが違う場合、十分に話し合うとこにしています。 (外部評価) 生活歴や職歴、趣味等について聞き取り、利用者がその人らしく生活できるように職員全員で取り組んでいる。草花の手入れや俳句等、利用者がしたいことの把握に努め支援している。聞き得た情報は記録し職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴、趣味、希望を中心に入居時に聞き取り、出来るだけ生活環境を変えないように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人が有する能力を引き出し発揮できるような場面作りの演出をしています。記録に出来ることを記入して行くようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、御家族の要望を聞いて介護計画を作成し、3ヵ月に1回見直しと月1回の評価を実施。全職員で意見を出し合い完成させるように取り組んでいます。	
			(外部評価) 計画の実施状況はケース記録に毎日記録している。担当の職員が計画の評価を行い全体会議で話し合って介護計画を作成している。面会時や行事等で家族が訪問した際に、利用者の状態を報告し意見を聞き取り介護計画に反映できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録の横にケアプランをはさんで見て、実施したことに対して記入し青線を引いています。職員間で情報を共有したり見直しに役立っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や御家族のニーズに合わせてマッサージ、介護タクシー等柔軟な対応を行っています。他に利用できるサービスを調べてはいないので調べて利用できるのであればしたいと思います。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 病院、公民館、介護相談員等、地域資源を活用し、利用者様が安全で豊かな暮らしが出来るように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、御家族の希望の係りつけ医としていますが希望 がない場合ホームの主治医を利用して頂いています。 本人の希望の外科、歯科、皮膚科などホームで連れて 行ってます。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て、協力医を主治医にしてい る。地域の医療機関ときめ細やかな医療連携体制を整 えている。月2回の往診以外にも緊急時の対応や毎年 の健康診断、専門科への受診支援等、医師と相談しな がら行っている。看護師が利用者の健康状態を把握し 管理している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 相談したい内容を看護師に伝え、受診がスムーズに行 くようにしています。往診記録等を活用して職員間で 情報を共有しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院の相談員さんを介して情報を頂いたり、お見舞い の祭、看護師に状態を伺うようにしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 御家族、本人と十分話し合い出来る事、出来ない事を 伝え主治医とも相談しながら支援して行くようにして います。看取りは、まだ行った事はありません。	
			(外部評価) 看取りの指針を整備し、医療連携体制を実施してい る。看護師の24時間のオンコール体制を確保し利用 者や家族の希望に沿えるよう努めている。看取りにつ いて事業所のできることや人員体制等、検討し体制づ くりを力を入れている。	終末期の利用者を支えていけるように、協力医療機関 の協力を得ながら今後も研修を定期的に行い、職員の レベルアップを図るよう取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に対応は、医療連携の看護師による勉強会を行い再確認しています。5月消防署による心肺蘇生法の練習を実施しレベルアップに取り組みました	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練を2ヵ月に1回（自主訓練）、消防署立会いで、年に3回来て頂き、地震、火災、漏電を想定して訓練しています。地震体験車、煙体験なども実施しました災害時、地域住民との訓練は、行っていないので必要があります。 (外部評価) 避難訓練を実施し災害に備えている。地域の避難場所の把握はしているが、地域住民との協同の避難訓練等行われていないため、具体的な協力体制はこれからの課題である。	地域で行われる防災訓練等へ参加する等さらに防災意識を高め、地域住民等の協力を得ながら、災害時に利用者の安全が確保できるような体制づくりについて検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であることを頭において対応しています。トイレや入室など声かけしたり、言葉がけにも注意しています。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについては、契約時に説明し同意をもらっている。接遇や声かけについて適切に行われるよう職員間で注意し合っている。家族のアンケートに項目を設け、意見を聞くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事のメニューやおやつ、洋服など選択、決定できるように働きかけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来だけ希望を取り入れてはいるが全てその人の思うままには難しい。一人ひとりのペースを大切にしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝、夕に乳液をつけたり、好きな服を着たりと本人の自由にしています。ひげそりの声かけなどそれとなく目配りしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の意見を大切に、季節の旬の物を提供。一緒に竹の子、空豆、とうもろこしなど皮はぎなど楽しみながら持てる力を発揮して手伝って頂いています。食器拭き、お膳拭き、など一緒に片付けを行っています。	
			(外部評価) 家族と利用者が一緒に食事ができる機会を設けている。「今日のメニュー」を利用者に書いてもらっている。ホットプレートを使用して利用者の見えるところで野菜炒めをする等、みんなで楽しみながら食事ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) メニュー作成後チェックを行い、食事の偏りを防ぐようにして野菜を多くとるようにしています。職員一人ひとりが意識して水分補給に力を入れています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 全員に食後口腔ケアの声かけで習慣が出来ています。夜間は、ポリデントしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成して定期的に声かけしています。自力で出来る様にベットの柵にT字の手すりをつけて自立の支援を行っています。	
			(外部評価) 利用者の排泄の状態をよく把握し、個々の利用者に合わせて支援を行っている。ベッドから立ち上がりやすいように工夫し、自立してトイレでの排泄ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜や果物などを取るようしたり、運動を促したりして朝、便器に座るように習慣づけています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴剤やのれんなど使用してより楽しめるようしたり、拒否の方もタイミングを図りながら声かけし入浴を促しています。	
			(外部評価) 丁寧に習慣や好みを聞き取り、利用者本位の入浴支援が行われるように取り組んでいる。清潔保持の面だけでなく、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの就寝時間を把握して支援しています。本人の希望で、お昼寝をしたりもします。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の前に名前、日付の確認をし誤薬予防に努めています。薬の説明書を読み返し目的、副作用が理解できるようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 雑巾縫い、野菜の収穫など生活歴を活かした楽しみごとをしています。食器拭きが人気です。畑から早い時期より摂りに行かれ待つられない位収穫が楽しみです。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりのその日の希望に添って戸外に散歩への支援は出来ているが普段いけないような遠出や外出の支援が車椅子が多いため出来ていない。	
			(外部評価) 家族の協力を得ながら外出支援を行っている。事業所の裏庭はきれいに整備された家庭菜園とベンチを設置し、中庭の広いウッドデッキでも外気浴ができるよう環境を整えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人の力量に応じて持って頂いていますが、使用時は見守りや声かけが必要です	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話できる方h s、見守りながらして頂き、疎遠にならないようにホームからも電話している。手紙を送る支援が出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレに1輪ごしの花を飾ったり、壁面に月々の手作りの物を創作し、季節感を取り入れています。西日が差し込まないようにかんれんしゃを設置。	
			(外部評価) 木造平屋の広い中庭のウッドデッキは利用者が洗濯物を干したり、外気浴をすることができる。広い窓からは近くの山や自然が一望できる。共用空間は広く、移動や介助も楽に行える。出入り口も多く災害時等の避難経路も確保されており安心して生活することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ベランダ、裏の畑など所々に長椅子を用意して会話や休めるようにしています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた椅子、テレビ、大正琴、アルバムなど思い思いの物を持参して頂いている。何もない方は、ホームでカレンダーなど手作りのものを貼ったりダンボール箱に包装紙を貼り自分用に物入れとして使用できるようにしています。	
			(外部評価) 各部屋から外の景色を見ることができ、居室にいながら季節を感じて過ごすことができる。利用者が心地よく過ごせる居室づくりがされている。災害時の確認札はボランティアの手作りで表札としても使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の部屋が分かるように表札を奥に行く程高くして見やすくしています。所々に杖置きを設置し安全に移動できるように工夫しています。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700501
法人名	((有)和みの会
事業所名	グループホーム 春のうらら
所在地	大洲市新谷乙917番地1
自己評価作成日	平成23年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神南山の麓に位置する当ホームは、変り行く四季の自然を、五感で感じることができます。敷地内からの眺めも良く、裏庭には農園、玄関前には、今年、バケツ田を準備し、米作りに挑戦中です。作る達成感、食べる喜びを、ご利用者と、共有できるのが、楽しみです。また、開設6年目を迎え、職員同士は、互いに認め合い、刺激しあいながら、日々成長しています。ご利用者の、その時々を姿を真正面から受け止め、関りの中から、喜怒哀楽を共有しています。笑い声がどこからともなく響いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然と共に、駅や公民館、病院、保育園、小中学校、商店街等が近くにあり、生活環境に恵まれた事業所である。2つのユニットの間にウッドデッキがあり、洗濯物を干したりバーベキュー大会を催す等、活用している。家庭菜園で栽培されている季節の野菜を利用者と一緒収穫し、食材として利用している。事業所内を利用者は自由に移動し、思い思いの場所でゆったりと過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 春のうらら

(ユニット名) つくしんぼ

記入者(管理者)
氏名 篠原美紀

評価完了日 平成23年8月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「その人らしさを大切に、あたたかいホームを目指します。」という理念に基づいたサービスの提供に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) 「その人らしさを大切に、あたたかいホームを目指します」という事業所の理念をもとに「感謝、助け合い」をユニットの目標に掲げている。利用者や職員がお互いに感謝し合い、助け合って日々過ごす事が大切であると考え実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区の運動会、公民館まつりに参加し、又、散歩時、途中にベンチを設置しており、地域の方々との語り等、積極的に交流している。昨年は、地区の芸能サークル発表会に参加できた。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を通じて、地域行事等の情報交換に努め、市民大清掃や公民館での芸能発表会、運動会等に利用者と共に参加している。また、年2回の事業所の文化祭には地域の方に協力してもらい、理解を深めてもらう機会としている。ベンチを設置し散歩途中の近所の人達と気軽に交流できるようにしている。</p>	現在行っている地域交流の取り組みを継続しながら、利用者に地域の一員として活躍してもらえようような機会を提供できるよう、今後の取組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会の地域住民代表、家族代表に、認知症の理解をしていただくための情報を発信しています。将来的にグループホームで培ったことを、地域に幅広く伝達していきたいです。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 月別行事内容、取り組み状況を報告し、意見を求めている。今年度から新しいグループホームも加わり、新たな交流ができればと、考えております。	
			(外部評価) 2か月ごとに開催し、利用者の状況報告や行事報告等を行い意見交換を行っている。地域の方とは、相互に行事等で協力し合う関係が構築されている。運営推進会議で検討された内容は職員会議で報告され、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者とは、密に連絡を取り合っており、協力関係を築いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加し、情報提供や助言等得られている。介護保険の更新時にはケアプランを提出し、利用者の情報を提供し連携を深めている。分からない事があれば相談し助言を得ている。市からの情報はメールにて送られてきて必要があれば返信している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 6月20日に職員の勉強会を実施し、再認識しあっている。身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束や虐待防止について勉強会を行い、職員全員で共通の認識を持つようにしている。施設長や管理者が率先して、利用者がのびのびと生活できるよう身体拘束をしないケアに取り組み、自由に過ごしてもらえるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 6月20日に学習会を実施し、学んでいる。今後も、学習会を重ね、理解を深めると共に、介護者のストレスが溜まらないような配慮や工夫も必要であると考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度利用されている利用者がおられる。本人、家族と話し合いを行いながら、安心して暮らせるようサポートを行っている。今後も増えるであろう制度利用者本人や、家族の安心のお手伝いを行ってきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、時間をかけて説明しています。また、報酬改正については、文書を出しています。又、家族会の時を利用して説明しています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 5月12日、御家族へのアンケート実施しました。満足度や要望、意見等を聞き、今後の運営に生かすようにしています。 (外部評価) 具体的な項目で意見や要望が記入しやすい様式の家族アンケートを年2回行っている。運営推進会議や職員会で結果が報告され、サービスの質や職員の質の向上に役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回の職員会議では、意見の出し易い場を提供している。又、個人面談を実施して意見を聞き出し、反映させている。</p> <p>(外部評価) 年2回個別の面談を行い意見を聞く機会を設けている。また、職員評価を施設長が中心になり職員全員で実施しており、評価結果は運営に反映させている。管理者は、職員の意見をよく聞くように心がけ、日頃から意見が出しやすい環境を整えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 小さな事業所なので、十分な事は出来ないが、一人ひとりの個性を生かした役割りを持つことで、やりがいや、向上心が持てるように考えている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 国家資格取得～実践者研修～リーダー研修～管理者研修とステップアップを支援している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 日本認知症グループホーム協会、愛媛県グループホーム協会に入会し、研修会に参加したり、市の担当者会に参加したりしている。又、今年度グループホーム間の相互研修にも参加します。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居しばらくの間は、不安や戸惑いも多々あると思うので、多めの声かけや、家族との連携等心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 日々の大きな変化等、御家族に電話で報告し、何でも気軽に声をかけていただけるようなふいん気づくりを大切に心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の要望の中で、できること、できないことをお伝えし、今できることを支援している。また、生活しながら見えてくるものは、本人、家族と相談しながら、訪問マッサージや、介護タクシー等連携し支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 今までできていたことが、だんだんできなくなっていく自分に対して、自信を失わないよう配慮している。場合によっては、他人の力を借りることの大切さを、「ありがとう」の言葉で伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの行事ごとや受診など、機会あるごとに、御家族に声をかけている。また、本人との一つ一つの関りの時間が、かけがいのないものとなるよう、見守り、支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 時間帯を問わず、知人や友人が気軽に足を運べるよう配慮している。また、外出時などは、地域の方とのふれあいの絶好の機会。偶然の再会に、思わず時間を忘れて、世間話に花が咲く・・・ということもしばしば。 (外部評価) 事業所での生活が長くなり地域での関わりが日常的になってきたため、新たな馴染みの関係を大切に取る取り組みが増えている。今までの馴染みの関係の継続については利用者の希望により、家族の協力を得ながら支援して行くよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれ、その時々のお気持ちや、体調など汲み取りながら、声かけなど、行っている。また、一人になりたいときは、一人でゆっくりできる時間を、見守っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院の場合、病院への見舞いや、死去の場合、葬儀への参列などさせていただいている。また、住み替えの場合は、現在の暮らしぶりを詳しく伝えるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いの把握に努めている。思いを御家族に伝えることによって、面会が遠のいていた方との面会が実現でき、喜んでいただけた。 (外部評価) 生活歴や職歴、趣味等について聞き取り、利用者がその人らしく生活できるように職員全員で取り組んでいる。草花の手入れや俳句等、利用者がしたいことの把握に努め支援している。聞き得た情報は記録し職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーには、十分配慮しながら、情報の共有に努めている。また、いっしょに生活を共にする中で、ふとしたことから、その人の歴史を垣間見ることもある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一見問題として見られそうなことも、見方を変えれば、長所となる。日々変化していく姿を見失うことのないよう気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 担当者を決め、担当者の気づきや、思いを大切にしながら、プラン作りを行っている。担当者は、家族と連絡を取り合う中で、信頼関係の構築にも繋がってきている。また、毎月、職員全員で評価、話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 計画の実施状況はケース記録に毎日記録している。担当の職員が計画の評価を行い全体会議で話し合って介護計画を作成している。面会時や行事等で家族が訪問した際に、利用者の状態を報告し意見を聞き取り介護計画に反映できるよう努めている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 気づきや工夫が、口頭での伝達のみで終わっていたり、介護記録に残されてない部分がある。アセスメントの共有化の重要性を再認識すべく、7月の勉強会で、記録の見直しと、記録の統一に向けての学習会を行った。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在取り入れているサービスとしては、訪問マッサージや介護タクシーがある。今後、要望をうかがいながら、制度や、お金のことも確認し、柔軟なサービスの利用が広がるよう情報提供していきたい。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 周りを見渡せば、はかり知れない資源がある。今年、ボランティアの方の力をお借りして、居室の安全確認のプレートを作成した。木のぬくもりがあり、ふだんは、表札として飾っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 緊急な場合、連携医の協力が必要であり、定期的な往 診体制もあることから、全員連携医へ移行している。 専門医への受診についても、引き続き継続できるよう 支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の同意を得て、協力医を主治医にしてい る。地域の医療機関ときめ細やかな医療連携体制を整 えている。月2回の往診以外にも緊急時の対応や毎年 の健康診断、専門科への受診支援等、医師と相談しな がら行っている。看護師が利用者の健康状態を把握し 管理している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回、訪問看護師による訪問支援を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院のソーシャルワーカーさんと、利用者の状態の連 絡を取り合って見守っている。退院が間近になると、 面接等伺い、退院後スムーズにホームでの生活が送れ るよう配慮している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や、終末期にむけた方針について、話し合っ ているが、具体的な詰めた話し合いにまでは至らず。職 員間でも、看取りについては、揺れる思いがあり、温 度差もある。	
			(外部評価) 看取りの指針を整備し、医療連携体制を実施してい る。看護師の24時間のオンコール体制を確保し利用 者や家族の希望に沿えるよう努めている。看取りにつ いて事業所のできることや人員体制等、検討し体制づ くりを力を入れている。	終末期の利用者を支えていけるように、協力医療機関 の協力を得ながら今後も研修を定期的に行い、職員 のレベルアップを図るよう取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署立会いによる職員の救急救命の実践訓練を定期的に行っている。また、9月に消防署主催による応急手当大会への参加を予定している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回自主訓練を、年に3回消防署立会いにての訓練を行っている。ご近所の方を巻き込んだ訓練や、実際夜間帯に行う訓練など、今後、より現実的な訓練が行えるといい。 (外部評価) 避難訓練を実施し災害に備えている。地域の避難場所の把握はしているが、地域住民との協同の避難訓練等行われていないため、具体的な協力体制はこれからの課題である。	地域で行われる防災訓練等へ参加する等さらに防災意識を高め、地域住民等の協力を得ながら、災害時に利用者の安全が確保できるような体制づくりについて検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に、排泄時や、入浴時は、自尊心、羞恥心に配慮する言葉かけや行動を心掛けている。夜間帯は、気配を察知するため、扉の隙間をあけさせていただく場合もある。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについては、契約時に説明し同意をもらっている。接遇や声かけについて適切に行われるよう職員間で注意し合っている。家族のアンケートに項目を設け、意見を聞くようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 会話の中から探りだしたり、行動に気づき、声かけを行っている。大勢の中では伝え辛いことでも、一対一だと伝わることもある。待つことは、大切な支援であると考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にした支援を心掛けている。入浴や、夕食の時間帯は、安全面を一番に考え、職員の人員体制が手薄にならない時間帯に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みを重視しながら、洋服を選んだりしているが、場合によっては、季節にあった装いのお手伝いもさりげなく行っている。いろいろなことが、おっくうにならないよう髭剃りなどの声かけ支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備段階から関することで、食べる楽しみが増えるよう、利用者の出番作りの場面を大切に、支援している。買い物支援がもう少しできるようにしたい。	
			(外部評価) 家族と利用者が一緒に食事ができる機会を設けている。「今日のメニュー」を利用者に書いてもらっている。ホットプレートを使用して利用者の見えるところで野菜炒めをする等、みんなで楽しみながら食事ができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) お一人お一人の心身の状態の観察を行い、おいしく食事が摂れるよう配慮している。また、水分不足にならないよう、こまめな水分摂取の声かけと、確認を行っている栄養士による献立での見直し、カロリー計算を依頼しているが、まだ、指導、助言は受けていない。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔保持に気をつけている。義歯の方、歯のない方、自分の歯が残っている方、様々で、仕上げ磨きにも気をつけている。口臭の改善にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別の排泄パターンや、特徴を理解し、サインをキャッチし、気持ちよい排泄への支援を行っている。病院で入院中オムツ使用していた方も、退院後は、リハビリパンツ、パンツへ移行している。	
			(外部評価) 利用者の排泄の状態をよく把握し、個々の利用者に合わせて支援を行っている。ベッドから立ち上がりやすいように工夫し、自立してトイレでの排泄ができるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の状態に合わせて、運動、水分の促しや、軟便剤の服用等気をつけている。また、行きたい時に排泄できる環境を整えることが最も大切であると考え、支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員の勤務上での入浴支援体制であるのが現状。しかし入浴時間は、心身の状態の観察や、コミュニケーションの大切な空間であると考えている。	
			(外部評価) 丁寧に習慣や好みを聞き取り、利用者本位の入浴支援が行われるように取り組んでいる。清潔保持の面だけでなく、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ゆっくり静かに休みたい、誰か傍にいてほしい、一人ひとり違う思いを受け止め、安心して休息できるよう配慮している。協力医や家族と相談し、場合によっては眠前薬の力も借りている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 心身の状態の変化に伴い、服用する薬も変わっていくため、その都度、服薬状況を記録簿にファイルし、回覧している。また、誤薬防止のため、服薬時に日付け、名前を声に出して確認しあっている。服薬ケースも、分かり易いものに変更した。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割りについては、本人の有する力や、気持ちを汲みながら、支援している。家にいるときは、食事準備がおっくうだったり、出来なくなってしまうと思っていたことが、共同生活をする中で、楽しみに変っている利用者もおられ、表情もいきいきと輝いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に添える外出は、あまりできていない。難しい面もあるが、出来ない諦めず、家族や地域の方々の方も借りながら、あたりまえに、行きたいところへ行けるようにしたい。 (外部評価) 家族の協力を得ながら外出支援を行っている。事業所の裏庭はきれいに整備された家庭菜園とベンチを設置し、中庭の広いウッドデッキでも外気浴ができるよう環境を整えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の状態、家族の思い等確認しながら、お金を持つことで安心される方については、所持されている。面会時などのお見舞金などは、職員に声をかけていただくようお願いし、管理している。また、その際、家族への速やかな報告を怠らないように気をつけている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 突然の電話で、びっくりすることのないよう、配慮している。親戚間でも、ホーム入居のことを、伏せている家族もあり、慎重に対応している。手紙についても同じような配慮を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有スペースは、広く、明るく、車椅子での移動もしやすい。また、季節の花や、壁面など、皆の心を和ませている。スタッフは、常に、五感を働かせ、居心地のいい空間作りに勤めている。	
			(外部評価) 木造平屋の広い中庭のウッドデッキは利用者が洗濯物を干したり、外気浴をすることができる。広い窓からは近くの山や自然が一望できる。共用空間は広く、移動や介助も楽に行える。出入り口も多く災害時等の避難経路も確保されており安心して生活することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 裏の畑の木陰のベンチに腰を下ろしたり、和室の畳の上で寛いだり、自由に過ごせるところが、周りを見渡せばあちこちにある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 心身状況の変化に伴い、本来なら、安心した生活を誘っていた道具が、本人の不安要因に変わっていく場合もある。常に、その時々々の状態の把握を行い、心穏やかに生活するためのきめ細かい配慮を怠らないようにしていきたい。	
			(外部評価) 各部屋から外の景色を見ることができ、居室にいながら季節を感じて過ごすことができる。利用者が心地よく過ごせる居室づくりがされている。災害時の確認札はボランティアの手作りで表札としても使用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の洗面台は、車椅子でも使用でき、トイレ、浴室などは、わかりやすく大きな文字で表示してある。また、だれにでも失敗があることを、互いに認め合う関係作りに努めている。	